

# 日本経済新聞

7月27日

金曜日

## 新潟

### Made by 信越

#### 尾畑酒造

トキのひな誕生で注目を集める佐渡の酒蔵が、環境に配慮した減農薬栽培の米を100%使う清酒を今春、発売した。尾畑酒造（新潟県佐渡市、平島健社長）の「真野鶴純米吟醸 朱鷺（こさき）と暮らす」は、農家の協力を受け栽培した減農薬の酒米「越淡麗」を100%使った点が売り物だ。米作りの段階から環境に配慮したことを訴え、新たな主力商品への育成を目指す。

「商品発売、そして1

### 減農薬米100%の清酒



新商品には自然との共生というテーマを掲げる

## トキとの共生、酒造りで

カ月後にひな誕生とつれ 佐渡には米の栽培で減程で割れやすい性質がある。農薬にこだわる専業農家り大吟醸などに向かない。田の判断もあった。

島社長は振り返る。朱鷺がいくつも存在する。田と暮らすは、環境に配慮にひく水を力手般を通過酒造りの過程でも、杜氏が（とうじ）らと酵母な用一升瓶も視野に入れ、減農薬栽培につなげどでさまさまな工夫を凝る。飲食店へ試験的に提供を考えたとき、トキなる工夫をする農家に協らしたという。現在、佐

「商品発売、そして1

ど自然との力を求めた。酒米栽培の共生が力ギ経験があまりなかったことになる。とから、試行錯誤を重ねた。まず、ながら3年かけノウハウだ。まずはを蓄積したという。酒米米からと、も県内で主流の「五百万石」でなく、開発から歴史の浅い越淡麗を採用。五百万石は米粒を磨く過

#### ひな誕生の報 売り込む好機

「トキのひなが誕生したことで佐渡全体が盛り上がった」と平島社長は客らに自然と共生の島・振り返る。佐渡の観光客は、佐渡の酒を売り込むスピード感も力ギになってく半減しているだけに、観る。（近藤康介）

渡市や新潟 一方で、越淡麗は酒米市の土産物として登録されて10年に満たず「酒米としての性質など不明な点も少なく20ミルビ質など不明な点も少なくない」という。コメの出

新潟支局 0225-1222-175047  
長岡支局 0258-1371-110007